



# Red Hat Insights 2023

## リリースノート

Red Hat Insights リリースノート



# Red Hat Insights 2023 リリースノート

---

Red Hat Insights リリースノート

## 法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

本リリースノートでは、Red Hat Insights アプリケーションとサービスに実装される最新の機能と改善点を重点的に取り上げます。Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ をご覧ください。

## 目次

第1章 RED HAT INSIGHTS の製品ページ .....	3
第2章 2023 年 4 月 .....	4
2.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE .....	4
2.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX .....	4
2.3. RED HAT INSIGHTS FOR OPENSIFT .....	6
第3章 2023 年 3 月 .....	8
3.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE .....	8
3.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX .....	8
3.3. RED HAT INSIGHTS FOR OPENSIFT .....	11
第4章 2023 年 2 月 .....	13
4.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE .....	13
4.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX .....	13
4.3. RED HAT INSIGHTS FOR OPENSIFT .....	14
第5章 2023 年 1 月 .....	16
5.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE .....	16
5.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX .....	16
5.3. RED HAT INSIGHTS FOR OPENSIFT .....	18
第6章 2022 年 12 月 .....	22
6.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE .....	22
6.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX .....	22
第7章 2022 年 11 月 .....	24
7.1. 製品全体の更新 .....	24
7.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX .....	25
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ) .....	27



## 第1章 RED HAT INSIGHTS の製品ページ

Red Hat Insights は、Red Hat Enterprise Linux、Red Hat OpenShift、および Red Hat Ansible Automation Platform のほぼすべてのサブスクリプションに含まれる Software-as-a-Service (SaaS) アプリケーションです。

Red Hat Insights は予測分析を採用しています。情報とデータを追加するたびに、よりスマートになります。関連する洞察を自動的に検出し、カスタマイズしたプロアクティブな次のアクションを提案し、タスクを自動化することもできます。Red Hat Insights を使用すると、お客様は Red Hat 認定エンジニアの経験や技術知識を活かすことができるため、事業運営に影響が及ぶ前に容易に問題を特定、優先順位付け、および解決できるようになります。

[Red Hat Hybrid Cloud Console](#) にある SaaS オファリングとして、Red Hat Insights は定期的に更新されます。定期的な更新により、Insights ナレッジアーカイブがリアルタイムで拡張され、ミッションクリティカルなシステムの安定性に影響を与える可能性がある新しい IT 関連の課題が反映されます。

## 第2章 2023 年 4 月

### 2.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE

#### キーの更新

- プレビュー版は、Hybrid Cloud Console の新しいベータ版です。以下で、新たに公開される機能にアクセスできます。  
<https://console.redhat.com/preview>.
- 個別ユーザービューで Hybrid Cloud Console RBAC の機能強化を参照してください (プレビューで利用可能)。
- Splunk、Slack、ServiceNow の統合が一般提供としてリリースされました。詳細は、[Red Hat Hybrid Cloud Console](#) での [統合とイベントの設定](#) を参照してください。

#### 2.1.1. 公開済みのブログおよびリソース

- ブログ: [Understanding your options when connecting RHEL systems to Red Hat](#) (Brian Smith、2023 年 4 月 4 日)
- ブログ: [Track your Openshift costs more easily on Azure with new and improved capabilities in Red Hat Cost Management](#) (Chris Hambridge、2023 年 4 月 25 日)
- ブログ: [Red Hat Insights upgrade risks for Red Hat Openshift](#) (Tomas Dosek、2023 年 4 月 26 日)
- ビデオ: [RHEL Presents 55: Malware Detections with Red Hat Insights](#) (Brian Smith & Eric Hendricks、2023 年 4 月 5 日)
- ビデオ: [Insights / HCC Cost Optimization](#) (2023 年 4 月 7 日)
- ビデオ: [Hybrid Cloud Console Security](#) (2023 年 4 月 26 日)

#### 2.1.2. 統合および通知

##### Splunk、Slack、および ServiceNow 統合リリース(GA)

コンソール通知チームは、コンソールを介した新しい統合の一般提供を発表しました。

ユーザーは、コンソールから、日常のワークストリームで使用する製品に対して通知を設定できるようになりました。Splunk、Slack、ServiceNow で Hybrid Cloud Console イベントの通知を受信します。

[Red Hat Hybrid Cloud Console](#) > [Gear icon](#) > [Settings](#) > [Integrations](#) にアクセスして、今すぐお試しください。

### 2.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

#### 2.2.1. Advisor

##### 新しい推奨事項

Red Hat Insights ルール開発チームは、セキュリティ強化ルール1つを含む、17 の新しい推奨事項をリリースしました。

- サーバーが Matrox MGA G200e (rev 42) VGA コントローラーおよび mgag200 ドライバーでセットアップされている場合、レガシー BIOS がインストールされているサーバー上で Kdump が vmcore の生成に失敗する
- デフォルトのカーネルと互換性のないサードパーティーの oracleoks モジュールのビルドバージョンを使用すると、ソフトロックアップの警告が表示されてシステムがハングする
- 実行中のカーネルと互換性のないサードパーティーの oracleoks モジュールのビルドバージョンを使用すると、ソフトロックアップの警告が表示されてシステムがハングする
- RHEL 8.6 および 8.7 エッジコンピューティングシステムでの vxfs モジュールのアンロード中にカーネルパニックが発生する
- RHEL 8.6 および 8.7 での vxfs モジュールのアンロード中にカーネルパニックが発生する
- ディスクまたは inode クォータ制限が Incident を超えているため、XFS ファイルシステムへの書き込み操作が失敗する
- ディスクまたは i ノードのクォータ制限に達すると、XFS ファイルシステムへの書き込み操作が失敗する
- fstab のタイプミスにより、マウントされたファイルシステムが再起動後に期待どおりに動作しない
- fstab のルートまたはブートファイルシステムのタイプミスにより、システムが起動に失敗するか、マウントされたファイルシステムが再起動後に期待どおりに動作しない
- /dev/null へのリダイレクトによって破棄されるはずのデータが漏洩する
- デフォルトの initramfs ファイルが正常に生成されないため、再起動に失敗する
- ルートファイルシステムに noexec および nosuid オプションを使用すると、システムが起動に失敗する
- SR-IOV Ice/iavf ドライバーを使用すると、カーネルの既知のバグが原因でメモリー破損によるカーネルパニックが発生する
- SR-IOV Ice/iavf ドライバーを使用すると、カーネルの既知のバグが原因で、エッジコンピューティングシステムでメモリー破損によるカーネルパニックが発生する
- /dev/null への読み取りまたは書き込みに依存するツールおよびプログラムは失敗する
- SELinux ポリシーファイルが破損しているか、または空の場合にシステムは起動に失敗する

## 2.2.2. 修復

### 新規修復ガイド

ドキュメントチームは、[Red Hat Insights 修復ガイド](#) を公開しています。

これは、Red Hat Insights の修復に焦点を当てた最初のガイドであり、以下について説明します。

- 各種サポート対象のソリューション
- Red Hat Insights が特定した問題を修正するためのシナリオ
- リモートシステム上で Playbook を実行するまでの全体的なワークフロー

## 2.3. RED HAT INSIGHTS FOR OPENSIFT

### 2.3.1. Advisor

#### アップグレードのリスク予測 (プレビュー)

Insights advisor は、クラスターを OpenShift Container Platform の新しいバージョンにアップグレードするときに発生する可能性のあるリスクを評価します。アップグレードリスク予測は、IBM Research グループと共同開発された機械学習主導の機能です。

この機能は Red Hat Hybrid Cloud Console

<https://console.redhat.com/preview/openshift/insights/advisor/clusters> にリリースされており、クラスター情報ページの **Upgrade risks** タブでテストできます。このタブは、アップグレードが利用可能な場合にのみ表示されます。クラスターの情報ページには、アラートとオペレーターの状態が最も影響力のあるものから順に表示されます。すべてのお客様に対して、このアップグレード前の評価を確認して、最も重大な状況を解決してから、アップグレードを実行するように推奨しています。

The screenshot shows the Red Hat Hybrid Cloud Console interface. The left sidebar contains navigation options like OpenShift, Clusters, Overview, Releases, Developer Sandbox, Downloads, Red Hat Insights, Advisor, Recommendations, Clusters, Vulnerability, Subscriptions, Cost Management, Red Hat Marketplace, and Documentation. The main content area shows the 'Advisor clusters' page for 'osd02.hcc-lab.com'. It displays the cluster's UUID and last seen time. A yellow warning banner indicates 'Resolve upgrade risks' with the message: 'There are risks present that could impact the success of your cluster upgrade. For the best performance, resolve these risks in the Upgrade risks tab before upgrading.' Below this, the 'Upgrade risks' tab is active, showing a table of risks:

Name	Status	Message
insights	Not Available	UploadFailed
insights	Degraded	UploadFailed

### 2.3.2. コスト管理

#### Cost Management Metrics Operator v2.0

OpenShift のリソース最適化の一環として、Cost Management Metrics Operator バージョン 2 をリリースしました。この新しいバージョンは、使用状況とパフォーマンスのメトリックを収集してアップロードし、リソース最適化推奨エンジンである Kruize に渡します。

新しいバージョンのリリースからわずか 24 時間後には、Cost Management クラスターの 1/3 がすでに最新バージョンにアップグレードされていました。

これは、オープンソースコミュニティの 3 月にリリースされた Koku Operator の認定バージョンです。

**コストモデルの強化: OpenShift の実行コストを分散します。**

OpenShift上で実行されるユーザーワークロードは、何も存在しない環境ではなく、コントロールプレーンとワーカープレーンを備えたクラスター上で実行されます。ワーカープレーンには常にある程度の予備容量(通常は20~50%)があり、コントロールプレーンはワーカープレーンを管理する必要があります。

コントロールプレーンとワーカーの予備(未割り当て)容量にはどちらも費用がかかり、誰かがその費用を支払わなければなりません。一部の組織では、ITがこのようなコストを負担し、その他はユーザーのワークロードに分散することにしました。これは簡単に思えますが、実際はそうではなく、この機能を実装しているFinOpsツールはほとんどありません。

数ヶ月前から、Red Hat Cost Managementは、割り当てられていない容量とコントロールプレーンのコストを明示的に報告し始めました。今回、ユーザーがこれらのオーバーヘッドコストをユーザーのワークロードに直接配分できるようにすることで、さらに方向性を変え、アプリケーション別に包括的な全負荷コストをレポートできるようにしました。

## 第3章 2023年3月

### 3.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE

#### 3.1.1. ブログおよびリソースの公開

- ビデオ: [Red Hat Insights Overview](#)
- ビデオ: [Detecting malware on Red Hat Enterprise Linux](#) (John Spinks)

#### 3.1.2. 統合および通知

##### Splunk アプリケーション v0.18 のリリース

このバージョンには、ベータ版 URL の削除など、マイナー更新が含まれています。このバージョンは、最新の Splunk Cloud および Enterprise バージョンで認定されています。

##### advisor サービスの日次ダイジェストメールが利用可能に

advisor サービスから日次ダイジェストのメール通知をサブスクライブできるようになりました。

##### Red Hat Edge Management イベントが利用可能に

Red Hat Edge Management サービスではイベントが有効になりました。通知は、イメージの作成および更新デバイスで利用できます。

### 3.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

#### 3.2.1. 修復

##### Red Hat Insights 修復ガイド

Insights には、問題の修復に関するシナリオおよびソリューションに関する新しいドキュメントがあります。また、Playbook 実装のワークフローについても詳しく説明しています ([Red Hat 修復ガイド](#))。

#### 3.2.2. Advisor

##### advisor の週次レポートへの自動サブスクリプション

Insights advisor サービスに初めてアクセスすると、advisor の週次レポートに自動的にサブスクライブされます。このトランザクションレポートは毎週月曜日に送信され、登録環境で特定された推奨事項に関する主な情報が提供されます。また、古いシステムや自動削除のキューに含まれるシステムを強調表示することで、Insights へのシステムの接続ステータスも提供します。これらの設定は、アカウントに移動して **User Preferences**. を編集することで、いつでも変更できます。

##### 新しい推奨事項

Insights ルール開発チームは 12 の新しいルールをリリースし、その結果、次の条件に基づいて 22 の新しい推奨事項が作成されました。

- **cgroup\_disable=memory** が設定されている場合は、カーネルの既知のバグが原因で、RHEL 8.6 で **vmcore** の生成 に失敗します。
- カーネルの既知のバグにより、**sctp** モジュールでカーネルパニックが発生します。

- カーネルの既知のバグが原因で、RHEL 8.6 KVM ホストに移行すると仮想マシンが応答しなくなります。
- `oracleasm kernel` モジュールにより、RHEL 8.7 システムがクラッシュします。
- `/bin/bash` 権限の拒否は、他のユーザーの実行ビットが設定されていない場合に発生します。
- `STABLE_WRITES` フラグがデフォルトで有効になっている場合、カーネルの既知のバグにより、読み取り/書き込みファイル IO パフォーマンスのリグレッションが発生します。
- カーネルの既知のバグにより、`ethtool` コマンドまたは `sosreport` が `be2net NIC` に対して実行されると、カーネルクラッシュが発生します。
- **AMD EPYC Zen3 (Milan) プロセッサ** は、RHEL 8.3 より前の RHEL 8 バージョンおよび RHEL 7 ではサポートされていません。
- Red Hat Insights に同じマシン ID を使用するシステムが複数ある場合、ホストは正確な推奨結果を取得できない可能性があります。
- CephFS クライアントを使用すると、`netfs` モジュールでカーネルパニックが発生します。
- カーネルの既知のバグにより、`qed/qede NIC` に対して `ethtool` または `sosreport` コマンドが実行されると、カーネルメモリーの破損が発生します。
- `vsftpd anonymous` の書き込みが有効になっていると、セキュリティが低下する可能性があります。

### 3.2.3. パッチ

#### プレビューでのパッチテンプレートの更新

Insights は、プレビュー版のテンプレートにパッチを適用するための有益な更新を多数公開しました。

- テンプレートが適用されたシステムのリストなど、テンプレートの詳細を表示できるようになりました。
- テンプレートが適用されたシステムでは、アドバイザリーの 2 セットが表示されます。
- Applicable (システム上のパッケージに影響を与える、公開されている Red Hat アドバイザリー)
- Installable (テンプレートの基準をベースにした該当するアドバイザリーのサブセット)
- 現在 Satellite サブスクリイパーではないユーザーが、Satellite 試用版へのリンクが利用できるようになりました。
- ロールベースのアクセス制御 (RBAC) が更新され、管理者はテンプレートを表示および管理するためのアクセス権が割り当てられたユーザーを制御できるようになります。

### 3.2.4. サブスクリプション

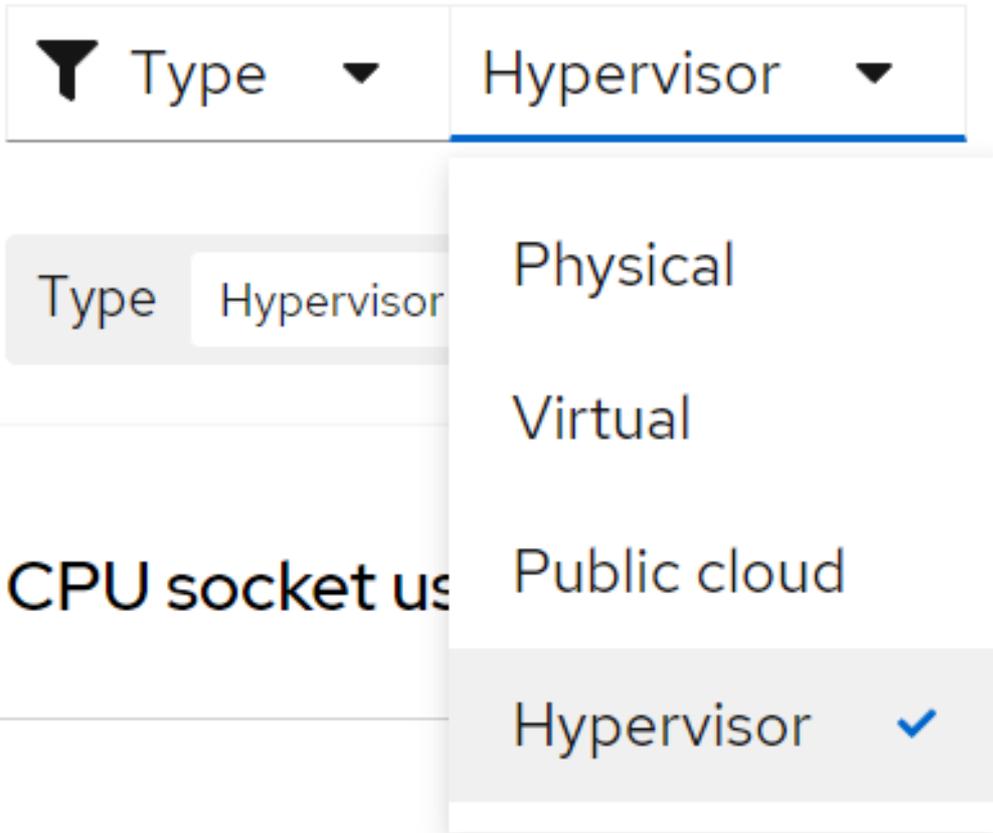
#### リファクタリングされたナビゲーション

サブスクリプションサービスでは、ユーザーインターフェイス (UI) の左側のナビゲーションが再編成され、いくつかのサブスクリプション要素が使用状況フィルターに移動されました。これにより、左側のナビゲーションがサブスクリプション監視用のプラットフォームレベルのセレクターに編成されます。

これらの変更は、3つのコアプラットフォームに1つの統合されたダッシュボードビューを提供するという当社の取り組みに沿ったものです。

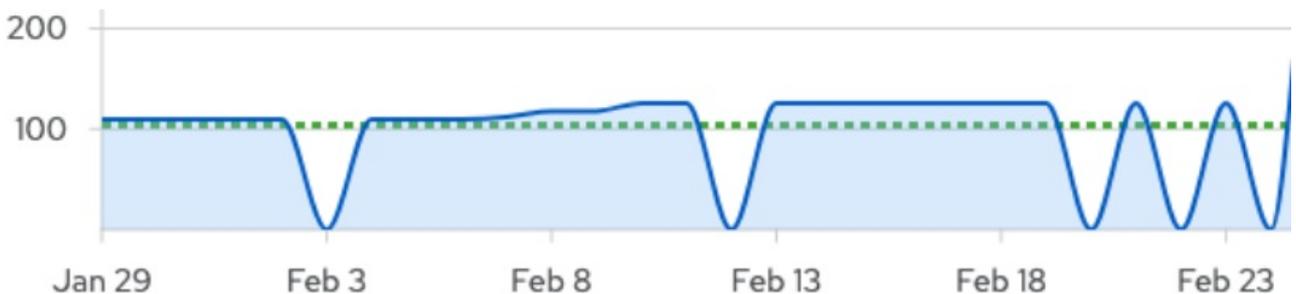
### Virtual Datacenters の RHEL のサポートを追加

RHEL のハイパーバイザーレポートが強化されました。RHEL の仮想データセンター (VDC) サブスクリプションなどの多くのサブスクリプションでは、仮想マシン (VM) トポロジと密度に関するある程度の知識が必要です。サブスクリプションサービスは、このマッピングとそのデータを必要とするサブスクリプションを直接表示できるようになりました。Type=Hypervisor を選択して、このデータを表示するだけです。



### データパイプラインの安定化

2023年2月27日に、毎日のアカウント集計とクラウドサービスプラットフォームインベントリーによるホスト情報処理の間の相互作用に影響を与える競合状態が特定されました。この問題により、クラウドサービスプラットフォーム内に存在する一部またはすべてのインベントリーが時折失われることがありました。影響を受けるアカウントでは、OpenShift Container Platform と RHEL (特に RHSM に登録された RHEL) ページにおいて使用状況に一貫性がない場合があります。この例は、以下を参照してください。



競合状態は、サブスクリプションサービスのタイミングを調整することで軽減されました。アカウントには、上のイメージのような使用量の差異が表示されなくなります。安定した環境で継続的に、使用量の変動がある場合は、サポートにご連絡ください。

### 3.2.5. マルウェア検出

#### European Institute for Computer Antivirus Research (EICAR) テストファイルを検出するための署名が追加される

IBM X-Force の最新リリースの署名が追加された結果、マルウェア検出サービスには 230 を超えるマルウェア署名が含まれるようになりました。このセットには、EICAR テストファイルの存在を検出するための署名が含まれています。このファイルは、ウィルウェアまたはウイルス対策ソフトウェアの機能をテストするための一般的な方法です。

### 3.2.6. リソースの最適化

#### 履歴チャートに日付が表示されるように

リソースの最適化では、過去 45 日間の使用率データを含むグラフが表示されます。これは、推奨事項の理由を理解できるように設計されています。このようにビジュアルが強化され、特定の日付の上にマウスを移動するとデータが表示されるようになりました。

Resource Optimization > aap01.hcc-lab.com

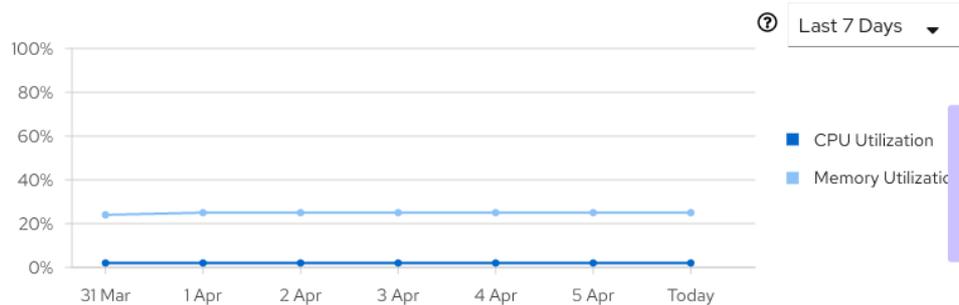
aap01.hcc-lab.com

Actions

UUID: b5995074-4f01-45e6-924e-b6ca799b74c3

Last reported: 12 hours ago  
 State: ✔ Optimized  
 Provider: aws  
 Instance type: r5a.large  
 Idling time: 98.35%

Is this suggestion helpful? 👍



Feedback

## 3.3. RED HAT INSIGHTS FOR OPENSIFT

### 3.3.1. Advisor

#### Insights の推奨事項を無効にする新しい設定オプション

以前のリリースでは、Insights アドバイザーサービスのデータアップロードは、テレメトリスタック全体と組み合わせないとオフにできませんでした。Insights をオフにすると、Cost Management サービスも無効にされます。この問題は、Insights の推奨事項のみを無効にする新しい設定オプションで解決されました。

#### デプロイメント検証の推奨値の取得

新しいタイプの推奨事項が管理対象 OpenShift で利用できるようにこの推奨事項は、Deployment Validation Operator (DVO) に基づいています。DVO は、アップストリームプロジェクト KubeLinter (Stackrox/ACS 製) を利用します。KubeLinter は、Kubernetes YAML ファイルと Helm チャートを分析

します。次に、実稼働環境の準備とセキュリティーを確認するために、さまざまなベストプラクティスに照らしてそれらをチェックします。選択された数の KubeLinter チェックが利用され、管理対象の OpenShift のベストプラクティスと、パフォーマンスが低下する可能性があることが通知されます。

### 3.3.2. コスト管理

#### コミュニティ Operator でのリソース最適化メトリクス

Koku Metrics Operator (Cost Management Metrics Operator のアップストリーム機能) は現在、リソース最適化のアドバイスを提供できるように、メトリックを収集しています。この機能は 6~8 週間以内に Cost Management Metrics Operator でリリースされる予定です (商用バージョンが公開される前にコミュニティからのフィードバックを得るために十分な時間を割り当てています)。

#### 請求データのフィルタリング

さまざまなデータを同じアカウントにグループ化する場合に役立つように、請求データの顧客フィルタリングが有効になっています。このさまざまなデータを Red Hat と共有すると、問題が発生することがあります。この機能を使用すると、クラウドアカウントから生成された請求データのサブセットのみを共有できます。

## 第4章 2023年2月

### 4.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE

#### 4.1.1. ブログおよびリソースの公開

- ブログ投稿: Tomas Remes と Tomas Dosek による [Prometheus アラートとしての Insights の推奨事項](#) (2023年2月9日)
- ブログ投稿: Jerome Marc による [Event-Driven Ansible Automation のイベントのソースとして Red Hat Insights を使用する](#) (2023年2月22日)
- 外部ビデオ: [Red Hat Insights Security](#)
- 外部ビデオ: [Red Hat Insights Business](#)
- 外部ビデオ: [Red Hat Insights Operations](#)
- 外部ビデオ: [Red Hat Insights Openshift](#)

#### 4.1.2. 統合および通知

##### 政府機関のお客様の要件をサポート

電子メールのみの通知は、貴社と貴社の IT チームを支援するオプションです。これらの通知により、通知用のユーザーデータの取得と電子メールからのシステム名の削除が簡素化されます。

##### 電子メールのユーザーエクスペリエンスの向上

次のアクションが利用できるようになりました。

- 新しいユーザーエクスペリエンスデザインガイドラインに準拠するための電子メールテンプレートの更新
- 総リスクに基づく推奨事項の並べ替え (重要から低)
- 推奨事項をフィルタリングして、最も重要なもののみを表示する

Insights は、イベント駆動型の Ansible Automation を可能にします

- ブログ投稿: [Red Hat Insights をイベント駆動型 Ansible Automation のイベントソースとして使用する](#)

### 4.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

#### 4.2.1. Advisor

新しい更新がリリースされました:

- [ダイバーの初期化の問題](#)
- [Nginx サービス設定の問題](#)
- [予期せぬスワッピング](#)

- [失われた/bin 起動の問題](#)
- [Microsoft SQL のベストプラクティスの問題](#)
- [RHV 4.4 SP1 システムのアップグレードの問題](#)
- [マスターブートレコードパーティションテーブルとディスク容量](#)

## 4.2.2. Insights タスク

### アップグレード前の分析を含む Red Hat Insights タスクの発表

Red Hat Hybrid Cloud Console を使用して、Insights に接続されたホストで簡単な分析を実行できます。Insights Tasks を使用して、RHEL 7 または RHEL 8 ホストでアップグレード前の分析を実行し、既知の問題を特定して修正します。接続されたホストをすばやく評価し、次のステップに関する明確なレポートを取得します。

#### 関連情報

[Hybrid Cloud Console Tasks](#)

[Red Hat Insights を使用して RHEL アップグレードから不明な点を取り除きます](#)

## 4.3. RED HAT INSIGHTS FOR OPENSIFT

### 4.3.1. Advisor

#### Insights の推奨事項をクラスター内のアラートとして表示し、クラスターの履歴に表示する

OpenShift の Advisor の推奨事項が複数の場所で表示されるようになりました。これらの推奨事項を確認することは、クラスターの問題をトラブルシューティングする際の最初のステップとして推奨されます。また、潜在的な問題がないか監視することも賢明です。監視にはいくつかの方法があります。

- 既存のモニタリングスタックを使用する
- Insights advisor アラートをダッシュボードに統合する
- クラスター履歴タブを使用する

#### 変更のリスク

OpenShift Container Platform の Advisor の推奨事項に、変更のリスクフィールドが含まれるようになりました。これにより、特定の推奨事項に含まれる変更の影響について、低 (クラスターやワークロードへの影響なし) から高 (クラスターの停止が必要) までの範囲の情報が提供されます。

### 4.3.2. コスト管理

#### Oracle Cloud インフラストラクチャー

アカウントとサービスが集約される場所に Oracle Cloud が追加されました。クラスター、ノード、プロジェクトなどの OpenShift エンティティへの OCI コストのディストリビューションは完了していません。

#### AWS 顧客のフィルタリングされたデータ

Cost Management 機能を使用していて、多数のシステム、クラスター、およびサードパーティーサービスがある場合、この機能は効果的です。特定のシステム、サービス、およびその他のリソースを除外することで、Red Hat と共有するデータの量を制限できます。

### オペレーターのインストール時に既存のデータをアップロードする

Cost Management Metrics Operator (CMMO) は、クラスターから Prometheus メトリックを収集し、それらを Cost Management にアップロードします。Prometheus はデフォルトで 2 週間のデータを保存するように設定されているため、Prometheus のすべてのデータがアップロードされるようにオペレーターを強化しました。これは、CMMO を既存のクラスターにインストールすると、初日から 2 週間のコスト情報を提供できることを意味します。

これは、Cost Management オペレーターを誤って停止またはアンインストールした場合、またはアップグレードで問題が発生した場合に役立ちます。この機能により、すべてのギャップが解消されます。

### リスク予測のアップグレード

アップグレードリスク予測は、クラスターアップグレードの失敗率を推定する機械学習機能です。また、潜在的なアップグレードの問題も強調しています。

## 第5章 2023 年 1 月

### 5.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE

#### 5.1.1. ブログおよびリソースの公開

- ブログ - Shane McDowell による [Red Hat Insights マルウェア検出サービスの一般提供を開始](#) (2023 年 1 月 10 日)
- ブログ - Mohit Goyal による [Red Hat Insights の新しい詳細な脅威インテリジェンス: システムの脆弱性に関する重要事項の優先順位付けを支援](#) (2023 年 1 月 16 日)
- ブログ - Andre Rocha による [Red Hat Insights マルウェア検出サービスの使用方法](#) (2023 年 1 月 23 日)

#### 5.1.2. 統合および通知

##### バグ修正とユーザーインターフェイスの拡張

次のユーザーインターフェイス機能が通知で使用できるようになりました。

- メールテンプレートがサービス間で一貫性を確保するために更新されます (継続中)。
- **View event log** ボタンは、[統合のランディングページ](#) からアクセスできます。
- [User Preferences ページ](#) が改善され、即時/日次通知と週次レポートが再編成されました (現在ベータ版で利用可能)。
- **Configure Integrations** ボタンは、[Red Hat Insights のランディングページ](#) からアクセスできます。
- Splunk と Service Now の統合に関する追加情報は、[統合のランディングページ](#) に表示されません。
- 動作グループを削除すると、確認メッセージが表示されるようになりました。
- 長い名前を持つ行動グループが、[Notifications ページ](#) に正しく表示されるようになりました。

### 5.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

#### 5.2.1. Advisor

##### Edge やコンテナなどに関する新しい推奨事項

- 過去 2 か月間で、チームは 12 月に 5 つのルールを、1 月に 7 つの新しいルールをリリースし、既存のルールに基づく 3 つのエッジ固有およびコンテナ固有の推奨事項をリリースしました。
- Edge ホストまたはコンテナへのルール候補の適用可能性が、ルール開発プロセスに組み込まれました。
- 現在は、推奨事項により、実行中のコンテナ内のライフサイクル終了 (EOL) 製品を検出しています。[コンテナ内で実行されている製品がライフサイクル終了 \(EOL\) に達した場合、Red Hat はテクニカルサポートサービスとソフトウェアメンテナンスサービスを中止します。](#)

## 5.2.2. Drift

### バグ修正および UI の機能拡張

以下を含むいくつかの小さなバグ修正および拡張機能が Drift で利用できるようになりました。

- ページごとのサイズを変更した後のベースラインの並べ替えが修正されました。
- ベースラインのファクト/カテゴリ削除モダルのテキストが更新されました。
- リストが空の場合、**過去のシステムプロファイル** の比較ボタンが無効化されるようになりました。
- ベースラインの編集およびエクスポート時のトーストアラート通知が追加されました。

## 5.2.3. マルウェア検出

### 一般提供に関するブログの投稿

Red Hat 公式ブログの記事 [Red Hat Insights マルウェア検出サービスの一般提供を開始](#) で、マルウェア検出の一般提供を発表しました。

## 5.2.4. リソースの最適化

- リソース最適化は、RHEL 9 および RHEL 8 の最新のマイナーリリースをサポートするようになりました。
- エグゼクティブレポート v2。リソース最適化エグゼクティブレポートのこの新しいリリースは、過去 45 日間のデータに基づいており、過去 24 時間に基づく最も使用されたインスタンスタイプと最も頻繁な提案が含まれています。



# Resource optimization service report

This executive summary highlights the performance for your registered systems included in the resource optimization service.

## Registered systems

There are **766 registered systems** in the resource optimization service.

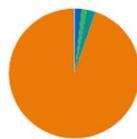
**14** of 766 systems are identified as **optimized**, **751** of 766 systems as having a **non-optimal** state.

**508** of 766 systems are **stale\***

Suggestions for stale systems might no longer apply due to systems not being refreshed in 7 days.\*

## Breakdown of registered systems

18 systems out of a total of 766 systems have Kernel Pressure Stall Information enabled. You could get better suggestions for 307 systems if you enabled Pressure Stall Information. Check the documentation on how to enable PSI on versions RHEL 8 and newer.



State	# of systems
Optimized	14 (1.83% of total)
Under pressure	9 (1.17% of total)
Undersized	17 (2.22% of total)
Oversized	0 (0% of total)
Idling	725 (94.65% of total)
Waiting for data	1 (0.13% of total)

Description of states are on the last page of the report\*

## System performance issues

There are 79 system performance issues.



Conditions	# of occurrences
Disk IO	9
RAM	35
CPU	35

## Breakdown of occurrences

● Disk I/O	● RAM	● CPU
Under pressure 9*	Under pressure 9*	Under pressure 9*
	Undersized 17	Undersized 17
	Oversized 9	Oversized 9

Under pressure (\*) conditions are only reported for systems where Kernel Pressure Stall Information is enabled. Check the documentation for details.\*

Description of conditions are on the second page of the report\*

## 5.3. RED HAT INSIGHTS FOR OPENSIFT

### 5.3.1. Advisor

Insights の推奨事項とクラスター履歴の統合

サービスログ (1つのクラスターをクリックすると、**Cluster history** タブの下に表示されます) は、Red Hat SRE とマネージドサービスのお客様との間の主要な通信チャンネルです。

クラスターで利用可能な実用的な推奨事項への認識を高めるために、Insights がこれと統合されました。各推奨事項には、Cluster history タブに直接移動できるイベントと、詳細を参照できる advisor サービスへのリンクがあります。

### クラスター内アラートとしての Insights Advisor の推奨事項

OpenShift Container Platform 4.12 のリリースに伴い、advisor サービスは情報アラートの形式で推奨事項を公開し、クラスターの問題を修正するために必要な手順をユーザーに案内します。

これにより、お客様はモニタリングスタック内のアドバイザーの推奨事項と、クラスター用にすでに設定されているアラートを監視するチャンネルを確認できます。

### デプロイメント検証 Operator と kube-linter プロジェクトに基づくヘルスチェック

マネージドクラスターのお客様向けに、新しいタイプの推奨事項が導入されました。ワークロードの不適切な設定によって引き起こされるクラスターの問題が、Red Hat SRE チームの作業の大部分を占めています。

デプロイメント検証 Operator は、StackRox オープンソースプロジェクト kube-linter を利用してこれらの設定をチェックし、間違いを advisor サービスに報告します。SRE の経験に基づいて、advisor サービスはマネージド OpenShift のお客様に直接修正を推奨します。

この機能はマネージドクラスターのみ限定されており、SRE チームの手厚いサポートとともにお客様に提供されます。将来的には、この機能は他のタイプのお客様にも拡大して提供される予定です。

## 5.3.2. コスト管理

### OpenShift の "プラットフォームコスト" のバケット化

OpenShift は、クラスターを実行するためのコントロールプレーンの一部として、多数の **kube-*<something>*** および **openshift-*<something>*** プロジェクトを実行します。これは、IT 部門またはエンドカスタマーのいずれかが支払う必要のあるコストです。

現在は、これらすべてのコストをまとめてグループ化し、それらをフィルタリングする簡単な方法 (トグルボタン) を提供しています。近い将来、ワークロードに起因するプラットフォームコストの一部として、他のプロジェクト (モニタリング、セキュリティなど) を含めることができるようになります。

OpenShift details Currency USD (\$) - United States Dollar

Group by Project **1651,76 US\$**  
1-2 de febrero

Project names	Month over month change	Cost
<input type="checkbox"/> Platform	191,66% ▲ 228,32 US\$ for 1-2 de enero	665,91 US\$ 40,32% of cost
<input type="checkbox"/> analytics	31,47% ▼ 352,31 US\$ for 1-2 de enero	241,45 US\$ 14,62% of cost
<input type="checkbox"/> wolfpack	0% ▲ 0,00 US\$ for 1-2 de enero	184,88 US\$ 11,19% of cost
<input type="checkbox"/> catalog	8,61% ▼ 165,64 US\$ for 1-2 de enero	151,37 US\$ 9,16% of cost
<input type="checkbox"/> install-test	12,19% ▼ 164,77 US\$ for 1-2 de enero	144,68 US\$ 8,76% of cost

## 未割り当ての容量のコスト

OpenShift クラスターを実行する場合、ピークや新しいワークロードなどに備える必要があるため、その容量の100%で実行することはできません。つまり、クラスターには常に未割り当ての容量（通常、総容量の33%から50%まで）があり、そのコストを支払わなければなりません。

コスト管理サービスは、ワークロードのコストに加えて、未割り当ての容量のコストを報告するようになりました。これにより、ユーザーは OpenShift でワークロードを実行するコストの全体像を把握し、それを顧客に請求できます。

OpenShift details Currency USD (\$) - United States Dollar

Group by Project **273,39 US\$**  
1-2 de febrero

Project names	Month over month change	Cost
<input type="checkbox"/> Platform unallocated	0% ▲ 0,00 US\$ for 1-2 de enero	445,47 US\$ 162,94% of cost
<input type="checkbox"/> Worker unallocated	53,01% ▲ 366,23 US\$ for 1-2 de enero	-172,08 US\$ -62,94% of cost

## AWS 上で OCP を使用する場合の Savings Plans

AWSには、ブレンド、非ブレンド、償却の3つのコスト報告方法があります。Savings Plansを使用している場合は、償却を使用してください。それ以外の場合はブレンドを使用してください。ブレンドは非推奨です。

コスト管理サービスは、AWS (クラウドサービスごと) ビューでこれら3つのモードをすでにサポートしています。Red Hatは、お客様がSaving Plansを使用している場合にプロジェクトコストの実績値が報告されるように、OpenShift ビューでこれを有効にしました。

この機能強化は、ユーザー事例から生まれたものです。

### プロジェクトのリソース使用量への配分の変更

コスト管理サービスでは、ユーザーが選択したグループ化モードによって、コストの分配方法が若干異なっていました。その結果、プロジェクトごとにグループ化した場合は、コストと総コストの1つのセットが表示され、タグごとにグループ化した場合は、まったく別のセットと合計が表示されました。これは意味がありますが、分かりにくく、説明するのが困難でした。

現在は、すべてのコスト配分をリソース使用量に切り替えました。そのため、タグでグループ化しても、プロジェクトでグループ化しても、同じコストが表示されます。

ノードとクラスターのコストもプロジェクトコストの合計になりました。未割り当て容量のコスト(上記を参照)が含まれたことにより、コストの確認方法にかかわらず、同じ合計が表示されるようになりました。

この機能強化は、ユーザー事例から生まれたものです。

### 償却月次コストモデルのコスト

以前は、月額コストは前払い料金として表示されていました。コストモデルにクラスター/ノード/PVC カウントごとのコストがある場合、カウントを計算し、そのコストを月の最初の日に関連付けていたため、その日に大幅なスパイクが発生していました。

これらのコストを月全体で均等に分配するように変更し、各日のその月の総コストに占める割合が等しくなるようにしています。

この機能強化は、ユーザー事例から生まれたものです。

### Cost Management Metrics Operator 1.2.0

このバージョンでは、"node\_role" メトリックがレポートに追加されます。これは、非接続モードでコスト管理サービスを使用する大規模な防衛産業のお客様にとって重要でした。

チームは、お客様から要望をいただいてから1か月以内にこれを実装、テスト、およびリリースしました。

この機能強化は、ユーザーからの要望によるものです。

## 第6章 2022年12月

### 6.1. RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE

#### 6.1.1. ブログおよびリソースの公開

- ブログ投稿: [Slack と Red Hat Insights の統合](#) by Jerome Marc (2022年12月9日)
- ブログ投稿: [システムタグを使用して、拡張セキュリティ強化の推奨事項を有効にする](#) by Jakub Svoboda (2022年12月14日)
- ブログ投稿: [Red Hat Insights Actions を使用して RHEL のアップグレードから未知のものを取り除く](#) by Megan Meza (2022年12月15日)
- プレスリリース: [Red Hat、新しい Red Hat Insights 機能を使用して、ハイブリッドクラウドワークフロー全体の可視性を拡大](#) (2022年12月15日)

#### 6.1.2. 統合および通知

##### Splunk 認定アプリケーション v0.17 がリリース

Splunk 向け Insights for Red Hat Enterprise Linux アプリケーションの新しいバージョンが Splunkbase マーケットプレイスで入手できるようになりました。このバージョンでは、アプリケーションのアップグレード時にセットアッププロセスをナビゲートする必要がなくなりました。

##### バグ修正とユーザーインターフェースの拡張

次のユーザーインターフェース機能が通知で使用できるようになりました。

- エンドポイント URL が検査され、内部 IP アドレスが拒否される
- Slack 統合が削除時にバックエンドから削除される

##### 関連情報

- 統合および通知ファイアウォール設定: [Red Hat Insights/Console.redhat 統合および通知にアクセスするためのファイアウォール設定](#)
- Splunkbase マーケットプレイス: [Splunkbase マーケットプレイス](#)

### 6.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

#### 6.2.1. Inventory

##### Remote Host Configuration (RHC) の新しいフィルタリングオプション

新しいフィルターを使用すると、[console.redhat.com](#) でシステムを一覧表示できます。これにより、RHC を使用して修復できるシステムを簡単に特定できます。

#### 6.2.2. RHC / Insights-Client

##### 登録プロセスの改善

登録および登録解除の手順が調整されました。これらの変更により、Insights インベントリでホストが重複するのを防ぐことができます。特定の機能には、次のものが含まれます。

- **--unregister** パラメーターを使用すると、Insights クライアントは **machine-id** ファイルを削除します。したがって、システムを同じ machine-id で登録することはできません。
- **--force-reregistration** パラメーターは非推奨になります。同じ目標 (Insights クライアントを新しい machine-id で登録する) を達成するには、\*\*Insights client **--unregister** および **Insights-client --register** を実行する必要があります。
- システムに **machine-id** が存在し、Insights クライアントが登録されていない場合、**--register** パラメーターは失敗します。それは障害のある状態のほずです。これを修正するには、**insights-client --unregister** と **insights-client --register** を実行する必要があります。
- クライアント設定ファイルで **legacy\_upload=True** を使用すると、Insights クライアントが障害のある状態になる可能性があります。システムが RHSM に接続されておらず、以前に登録されたことがある場合、システムは登録されているが、アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) によって確認されていないことを示します。新しい変更により、そのような状態が検出されると、**.registered** および **machine-id** ファイルがホストから自動的に削除されます。再度登録するには、**insights-client --register** を実行する必要があります。基本認証を設定した場合、これは影響しません。

### 6.2.3. Resource Optimization Service (ROS)

#### status.redhat.com の ROS

リソース最適化の可用性は、console.redhat.com の下の status.redhat.com で報告されるようになりました。

### 6.2.4. コスト管理

コストメトリックをより簡単に理解できるように、新しい機能が実装されました。

- 割り当てられていない容量のコストが表示される (ワーカーとプラットフォームの両方)
- Savings Plans が含まれる場合、Amazon Web Services (AWS) のコストはデフォルトで償却に設定
- タグまたはプロジェクトでグループ化すると、コストが正しく表示されないことがあった問題を修正

#### 関連情報

- [Red Hat Enterprise Linux > Inventory](#)
- [Red Hat Enterprise Linux > Resource Optimization](#)
- [Red Hat Hybrid Cloud Console > OpenShift > Cost Management](#)

## 第7章 2022 年 11 月

### 7.1. 製品全体の更新

#### 7.1.1. ブログおよびリソースの公開

- ブログ: [Sharing Red Hat Insights with your Technical Account Manager for better collaboration](#) (著者: Brian McCafferty、2022 年 11 月 1 日)
- ブログ: [5 ways Red Hat Insights can improve your sysadmin life](#) (著者: Joseph Tejal、2022 年 11 月 2 日)
- ブログ: [Integrate Grafana and Red Hat Insights through APIs](#) (著者: Jerome Marc および Gianfranco Sigrisi、2022 年 11 月 10 日)
- ブログ: [How we use Red Hat Insights to build better products](#) (著者: Radek Vokal および Tomas Dosek、2022 年 11 月 18 日)

#### 7.1.2. 統合および通知

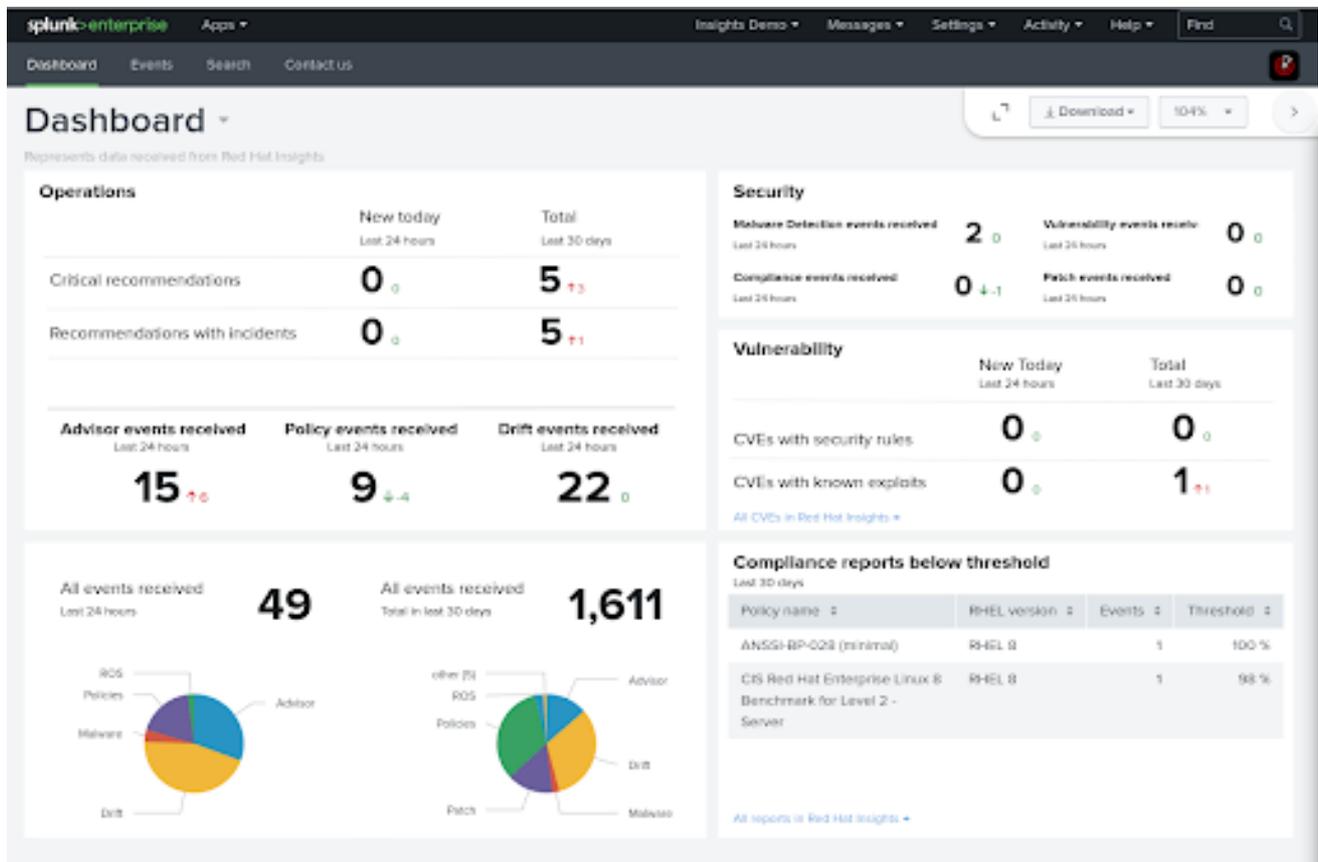
##### Slack 統合がサービスプレビューで利用可能に

Red Hat Insights と Slack の統合がサービスプレビューとして利用できるようになりました。Insights がイベントをトリガーするたびに、この機能はイベントとそのデータを Slack レシーバーに転送し、メッセージを適切なチャンネルに投稿します。

##### Splunk 認定アプリケーション v0.16 がリリース

Splunk 向け Red Hat Insights アプリケーションの新しいバージョンが Splunkbase マーケットプレイスで入手できるようになりました。この v0.16 の更新には以下が含まれます。

- ダッシュボードの新しいグラフ
- 組織 ID の新しいフィルター
- (null) アカウント ID のバグの修正
- インストールドキュメントの更新
- リソース最適化イベントの有効化



## 関連情報

- 統合設定: [Red Hat Hybrid Cloud Console](#) での通知と統合の設定
- Splunkbase マーケットプレイス: [Splunkbase for Red Hat Insights](#)

## 7.2. RED HAT INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX

### 7.2.1. Advisor

#### 拡張されたセキュリティ強化の推奨事項

拡張セキュリティ強化は、特定のシステムをセキュリティに敏感なシステムとして指定し、追加のセキュリティ分析と修復コンテンツを受け取ることができる機能です。Red Hat Insightsadvisor の拡張強化に関する推奨事項には、以下が含まれます。

- セキュリティの低下: [セキュリティの低下: Permissive モードの SELinux](#)
- セキュリティの低下: [セキュリティの低下: SELinux が無効](#)
- セキュリティの低下: [セキュリティの低下: カーネルネットワーク設定](#)

#### カーネルパニック、メモリーリークなどを防止するための新しい推奨事項

Insights Advisor は次の 8 つの新しいルールを公開しました。

- Berkeley Database は、Red Hat Enterprise Linux 9 で非推奨となりました。
- CommVault ContinuousDataReplicator (CDR) は、iptables NAT およびその他のカーネルモジュールのロードを防止します。

- firewalld の iptables バックエンドは、Red Hat Enterprise Linux 9 で非推奨となりました。
- カーネルリグレーションバグが原因で、EXT4 ファイルシステムで Posix ACL を処理するときにはカーネルメモリーリークが発生します。
- Red Hat Enterprise Linux 8 の bnxt\_en ドライバーの既知のバグによって引き起こされる送信ロックの競合状態が原因で、カーネルパニックが発生します。
- Red Hat Enterprise Linux 8.6 で QProcess デッドロックが発生すると、アプリケーションが正常に動作しません。
- /usr/libexec でホスティングされているスクリプトまたはコンパイル済みの実行可能スクリプトは、fapolicyd と falcon-sensor カーネルモジュール間の非互換性のため、実行できません。
- 異なる Red Hat Enterprise Linux バージョンのホストで実行されている権限のあるコンテナには互換性がありません。

## 7.2.2. 脆弱性

### 対処された OpenSSL の脆弱性

Red Hat Product Security Intelligence は、OpenSSL 暗号化ライブラリーの脆弱性である CVE-2022-3602 および CVE-2022-3786 を特定しました。この解決策により、DoS が防止されます。Insights Vulnerability へのリンクは、OpenSSL の脆弱性に関するセキュリティー情報 RHSB-2022-004 の上部に表示されます。Insights Vulnerability は、手書きの Insights ルールや手書きの Ansible Playbook を使用せずに、CVE-2022-3602 および CVE-2022-3786 を自律的に表示、検出、修復します。

### 関連情報

- OpenSSL の脆弱性: [OpenSSL の脆弱性 RHSB-2022-004](#)

## 7.2.3. コンプライアンス

### ポリシーウィザードの改善:

- ルールの作成を簡素化するためのリンク追加
- **Reset to default** リンクが利用可能に
- **View policy rules** リンクにより、最適な表示のために新しいブラウザウィンドウが開く

## 7.2.4. マルウェア

### Red Hat Insights マルウェア検出の一般提供を開始

Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux のマルウェア検出サービスは、RHEL システムをスキャンしてマルウェアの存在を監視および評価するツールです。マルウェア検出サービスは、YARA パターンマッチングソフトウェアおよびマルウェア検出署名を組み込みます。署名は、Red Hat 脅威インテリジェンスチームと密接に連携している IBM X-Force 脅威インテリジェンスチームと提携して提供されます。

### 関連情報

- マルウェア製品のドキュメント: [Insights for RHEL Malware Service を使用した RHEL システムでのマルウェアシグネチャーの評価と報告](#)

## RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

当社のドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。フィードバックを提供するには、ドキュメントのテキストを強調表示し、コメントを追加してください。

### 前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにログインしている。
- Red Hat カスタマーポータルで、**Multi-page HTML** 形式でドキュメントを表示している。

### 手順

フィードバックを提供するには、以下の手順を実施します。

1. ドキュメントの右上隅にある **Feedback** ボタンをクリックして、既存のフィードバックを確認します。



#### 注記

フィードバック機能は、**Multi-page HTML** 形式でのみ有効です。

2. フィードバックを提供するドキュメントのセクションを強調表示します。
3. 強調表示されたテキスト近くに表示される **Add Feedback** ポップアップをクリックします。ページの右側のフィードバックセクションにテキストボックスが表示されます。
4. テキストボックスにフィードバックを入力し、**Submit** をクリックします。ドキュメントに関する問題が作成されます。
5. 問題を表示するには、フィードバックビューで問題リンクをクリックします。